

会 議 録

| | | |
|--------------------|---|---|
| 会 議 の 名 称 | 朝霞市立朝霞第六小学校第5回学校運営協議会 | |
| 開 催 日 時 | 令和5年12月20日(水) 午前9時00分から 午前11時00分まで | |
| 開 催 場 所 | 朝霞市立朝霞第六小学校1階家庭科室 | |
| 出 席 者 | 学校運営委員5名、事務局3名(教頭2名、主幹教諭1名) | |
| 会 議 内 容 | 1 開会のことば 2 学校運営協議会 委員長挨拶 3 学校長挨拶および2学期までの取組と3学期の取組について 4 協議 (1) 学校評価アンケートの結果について (2) 校区小中連携ふれあい推進事業の実施内容について (3) 地域学校推進協働活動実践発表 動画視聴及び協議 (4) その他 5 閉会のことば | |
| 会 議 資 料 | ・会議次第 ・学校評価アンケート資料 | |
| 会 議 録 の 作 成 方 針 | <input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録 | |
| | <input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録 | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録 | |
| | <input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管(保存年限 年) | |
| | 電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間 | <input type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後○か月 |
| 会議録の確認方法 委員長による確認 | | |
| そ の 他 の 必 要 事 項 | 傍聴者 0人 | |

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会のことば（教頭）

2 学校運営協議会 委員長挨拶

委員長：学校運営協議会も5回目、本校はとても充実していると感じる。小・中学校では、子供と親のかかわり方が変わると感じる。病気の蔓延が各家庭、学校も大変であった。今後も体調等ご留意いただきたい。

3 学校長挨拶および2学期までの取組と3学期の取組について

校長：2学期は教職員も体調崩すことが多い。本校では新時代の教育を実践している。

- 2学期における子供主体の学びの実践例について。
 - ・ さくら学級…学級閉鎖中オンラインでの発表練習の実施。
 - ・ 1年生…生活科においてどんぐりのおもちゃを作成。
 - ・ 2年生…ゴムや風の力を利用してのおもちゃ作り。1年との連携。
 - ・ 3年生…人参堀り体験。みどり公園課と連携しゲストティーチャー招聘。
 - ・ 4年生…黒目川ボランティア、町内会との連携。ポスター作製および市役所と連携した掲示。
 - ・ 5年生…ショートフィルム制作会社との連携授業。動画の作成に注力。国語の学習内容を基礎としての取組。
 - ・ 6年…メイ朝霞と連携したマレーシアとのリアルタイムでの交流学习。
 - ・ 高学年…体育委員会での体力アップの取組実施。外発動機付けの景品等の工夫。習字クラブによる校内掲示作成。
- 1月より tetoru を活用開始し、ペーパーレス化へ移行。SAMR モデルを活用し、児童がICTを活用した学びの高まりを目指す。
- 子供主体の学び、共育・共創を進めていく。マルエツと連携し、習字の掲示を予定。
- 社会情動的スキル…目標達成の熱意・社交性・情動の抑制の3つが重要。

4 協議

(1) 学校アンケートの結果について（主幹教諭より）

- 保護者
 - ・ 13項目中12項目においてA、Bの割合が80%を超えている。
 - ・ 令和4年度と比較し「子供は自ら学ぶ子に育っている。」は8.1%、「学校は子どもの興味や意欲、子に応じた指導をしている。」は10.3%上昇している。
 - ・ 「学校はPTAや学校応援団、地域の方々と教育方針を共有し、教育活動を実践している。」の項目が、90%を超えており、非常に高いと言える。
 - ・ タブレット端末の利用について肯定的、否定的な意見の両方がある。

・縮減した行事や実施していない行について、増加や復活の希望がある。

●児童

・全11項目中でA,Bの割合が80%以上、6項目で90%以上あり概ね高いと言える。

●教職員

・全14項目中、13項目でA,B割合が80%以上、11項目で90%以上あり概ね高いと言える。

・生活のきまりについて、教職員が共通理解し、ブレのない指導を行うとともに、児童への周知および保護者への共有により、共通理解を図る。

・時数や会議の見直し、教育課程の見直しにより時間を捻出し、授業準備の時間を確保して、質の高い授業を実施する。

委員：保護者の評価が上がってよかった。評価項目を出したことが良かったのではないか。回収率はどの程度だったのか。

主幹：6割程度である。事前に手紙で評価規準を出したうえで、YouTubeでも発信している。

委員：教職員が多忙な中で外部団体の協力の際、提出期限等よく守っているのではないか。ウェルビーイングは大人も含めてのものにしていかなければならない。かかわる大人もウェルビーイングを感じられるようなものにしていくことが重要である。

委員：iPadについては懸念がある。ルールの中で本来は学習用であるが、何でもできてしまう。家に保護者が不在の過程もあると思うが、自制できない子は大丈夫か。依存性も言われている。目や睡眠も心配である。しかしながら使用は必要。低学年など分別ができるのか不安である。学校で与えているものという考え方もあるので、ルールの周知が必要。

・持久走大会については、30年前はグラウンド外の道路を使用して実施していたときもある。今は環境が変わっているので難しい部分もある。子供にとって何が大事なことか考え、社会情動的スキルにかかわって忍耐力なども重要だと思うので、やった方が望ましいが状況もある。

・本校学区内では、今後もマンション増加の兆しが強く今後も児童数は増加が予想される。

・食事についてのアンケート結果について、食べてない子もかなりの数いる可能性がある。引き続き家庭への啓発が必要か。

・職員の規模が大きいため、これまで取組の共有や引継ぎが難しくなっているのでは。チームワークが難しいのではないか。

委員：「わたしはバランスのよい食事をしている」に関しては、学習すればするほど認識が上がり、結果は下がるのではないか。家庭によっては難しいので、質問項目を子ども自身がどう認識しているかを問う項目にしてもよいのではないか。

委員：高学年は自分で考えて、食事の行動でいるようなものはどうか。

主幹：自分ごとにして、子供が家庭で声をあげられるようになるとよい。

委員：「足りないなら、こういう提案をおうちの人にしてみよう」という働きかけが大切ではないか。

委員：自分のやりたいこと、やりたくないことは子供それぞれある。持久走大会に関しては順位を上げることを目標にしている子もいる。タイムを計っているなどの活動や違う頑張り方や目標の示し方をしてもらっているようなのでそれはよい。

校長：タブレットを活用してラップタイムを計るなど、順位より自分の成長に主眼を置く体育での活動が増えている。

委員：そのような教育活動は保護者に周知していけるとよい。

委員：行事のための活動にすると大変である。むしろ普段の教育活動の様子を見られる機会という形でできるとよい。

校長：学校でも運動会などの行事が大好きな教員は多い。自分の経験と照らし合わせてイベントとして楽しみにしている保護者も多い。しかし教育活動の延長で行うことが大切。

委員：一連のイベントとしての運動会が味わいたい保護者は多いのではないか。

校長：行事として取り組む中で、その時期落ち着かなくなる子も多いことはこれまで見られた光景である。運動会を重要に考える気持ちはわかるが、そのような側面もある。

委員：子供が個人個人の目標に向かっていけるような活動が必要な時代である。昔、学校で読書の冊数を競う取組があったが、個人の興味関心を認められるような活動があってよい。

事務局：運営協議会委員の評価実施について次回お願いしたい。

(2) 校区小中連携ふれあい推進事業の実施について

事務局：一中校区ふれあいフェスティバルについて今年度の取組について説明。

令和5年度幹事校は一小、令和6年度は六小となる。

今年度は各校ごとの取組となった。校区内の町内会にも話を聞いたが、この活動自体が浸透していない。次年度以降も継続できるような活動にしていくことが必要であり、フェスティバルにした場合、保護者、教職員の負担が大きい。

委員：今年度の参加率はどのくらいか。

事務局：110名程度来校した。親子の触れ合いにはなったかもしれないが、地域のふれあいなってはいない感触がある。

委員：PTAは人が代わるため、未経験で実施しなければならないところに不安を感じ、それが負担感となるのではないか。一中校区内の学校同士、保護者同士の繋がりが薄い。

事務局：一校単位であれば打ち合わせなど実施しやすい。

委員：幹事が持ち回りとなるやり方が、地域性を鑑みても難しいのではないか。

委員：地域のコーディネーターが中心になって、ドレッシングづくりなどの共同活動に取組んだ例があるが、小中で一緒にやるのが難しい。お祭りなどではなく、市役所で地域内の代表が集まって議会などを行うのはどうか。

委員：防災訓練的なものはどうか。

校長：こども110番の家を確認する活動などもよい問いという意見もある。

委員：タンカのつくり方など、消防署員による危機対応などもできないか。

事務局：危機対応訓練を大々的にやっていた学校もある。

委員：地域の方も対象にして実施することがよい。

校長：市役所から非常食をもらって、社会科の学習に生かした。このような学習の際に地域連携できないか。児童の教育活動の中で実施することができないか。

委員：町内会主催で非常時の宿泊訓練などをかつては実施していたこともある。

事務局：町内会によって温度差がある。

(3) 2学期までの取り組みと、3学期の取り組みについて（校長・教頭）

※校長挨拶に含んで説明。

校長：地域との連携は職員からも好評。

委員：子供が体験できることで違いに気づくことができる。6学年の原爆語り部等も同じ。自ら学ぶ子が育つのではないか。それが学校評価の結果に反映しているのではないか。

校長：語り部の方はこちらから費用は出していない。4月応募し、10月に実施が決定した。実際の被爆者の場合費用が発生するそう。

委員：メイであれば感想があると、より関わりが深まるのではないか。

(4) 地域推進共同推進活動 動画視聴および協議

教頭：地域とどうかかわっていくかという研修を受けた。PTA組織の運営が難しい現状が分かった。動画を視聴し、情報を共有したい。

5 閉会のことば

・次回の運営委員会の開催は2月22日（木）9：00～10：30を予定